

人が何かを
成そうとする
とき、

最も大事なことは
その第一歩を
踏み出せるか
どうかだ。

ほんだ しゅんいち
ベスト・パートナー 本多 俊一

～ただ、ただ、お客様のために～

ほんだ しゅんいち
本多 俊一

電車がホームに
参ります。
白線の内側に
お下がりにください。


何があるか分らない、
新しい世界に飛び込んで
いこうとする勇氣。




この一歩からだった
のかもしれない。

長年銀行員であった
彼が、その向きを変えて
歩き出したのは…







高校卒業後、彼は
大手地方銀行の
社員となる。




企業に向けて
お金の融資を
することが彼の
仕事だった。



業務を着実にこなし
ながら、業務スキル
向上のため、資格取得
の勉強にもチャレンジ
する日々だった。




そんなある時、
自殺されたそうよ…



銀行も営利企業
であり、結果として
融資できる案件と
そうでない案件と
でてくるのは
当然のこと。

しかし…

それは、かつて自分が
融資の話を断った
顧客のことだった。



大変な世の中
だな…

気がつかないうちに
彼の中で、仕事に
対してズレを
感じ始めていた。

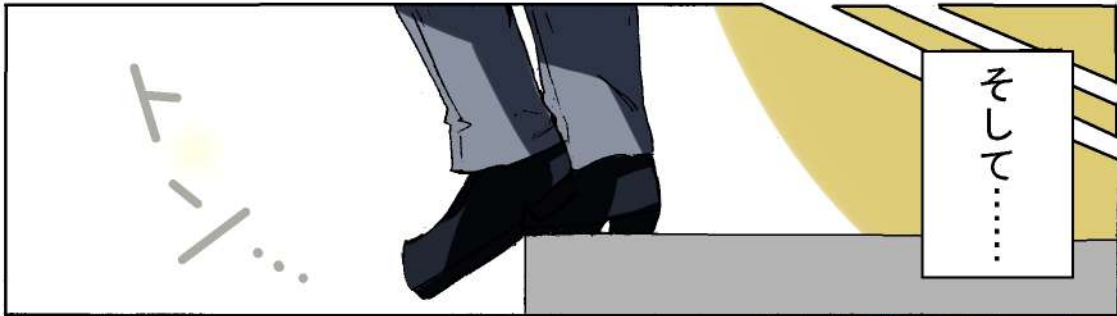


本当に困っている人のために手を差し伸べたい。

今は借りない方がいいですよ。

しかし、それが許されない。

それが正しいのか、間違っているのか、
どんだん葛藤の渦に飲まれ、気を病んでいく。



そして……



気がつけば自ら命を絶とうとしていた。



危ないっ！

日本における年間自殺者の数は三万人。
そのうちの二割の方が、金銭的な理由で自殺をしていた。



本多俊一は
勤めていた銀行を
辞めた。



ふと、彼の脳裏に
亡くなったあの
顧客の事がよぎった。

自殺ですって…



そんな想いが彼に
更なる一步を踏ませ、
経営コンサルタント業
へと進ませた。



本当に困っている人の
助けになりたい。
かつて助けることが
出来なかった顧客を
次は救いたい。



私と一緒に
乗り越えましょう！

ベスト・パートナー
本多俊一である！



自分の本当にした
こと、信念のために
動ける男。
それが…